

長崎港空NEWS

2021 Winter (冬号)

- ・今回紹介する工事

～厳原港防波堤(北)改良工事～

- ・佐世保港の歴史

～市政施行120周年を迎えます～

- ・トピックス

～新幹線「かもめ」が川棚港に陸揚げ～

～事務所HP改良に向け若手職員奮闘中～



厳原港防波堤(北)改良工事施工状況(脱枠)



新幹線「かもめ」の陸揚げ状況(川棚港)

工事の目的

厳原港の第一線防波堤である防波堤(北)は、供用後20年以上が経過し、近年の高波浪の影響とみられる消波ブロックの飛散・沈下により、防波堤本来の機能が発揮出来ていない状況です。

このままでは、台風等による高波が直撃し、防波堤が被災した場合、厳原港港内の静穏度が保たれず、対馬の暮らしを支えるフェリーやRORO船などの船舶の就航に影響を及ぼす可能性があるため、対策として既設より大型の消波ブロックへの見直し、防波堤の背後へ腹付工を実施するなどの改良を行います。

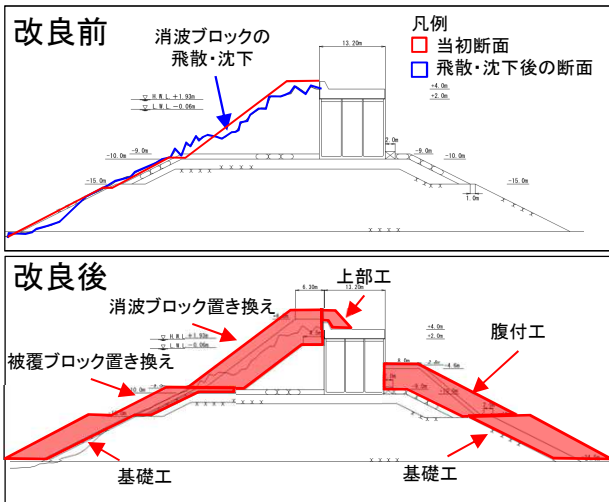
本改良工事にて、防波堤(北)の機能保全を行うことにより、船舶の安定した就航が可能となります。



防波堤(北)の現状



工事の概要



防波堤(北)改良工事の全体の流れ

1. 腹付工
ケーソンの滑動対策として港内側の腹付工を拡幅
2. 新設する消波ブロック・被覆ブロックの製作
見直した規格の消波ブロック・被覆ブロックを製作
3. 既設消波ブロック・被覆ブロックの撤去
規格の見直しによって不足する断面を補うため、既設の消波ブロック・被覆ブロックの一部を撤去
4. 基礎工・上部工
ブロックの規格アップに伴い、基礎工・上部工の拡幅
5. 被覆ブロック・消波ブロックの据付
新たに製作した被覆ブロック及び消波ブロックを据付

新たに製作する消波ブロックは、既設の消波ブロックより大型の消波ブロックへ見直しました。

工事の流れ

今回紹介する「消波ブロック製作」の大きな流れは、以下のとおりです。

- ①型枠組立
消波ブロックの型枠を組み立て
- ②コンクリート打設
組み立てた型枠にコンクリートを打設
- ③型枠取り外し
コンクリートの型枠を取り外し
- ④養生
コンクリートの硬化に必要な温度及び湿度を保つため、養生を行う(7日間)



既設の消波ブロックと新設する消波ブロックの比較



①型枠組立



②コンクリート打設



③型枠取り外し



④養生

佐世保港の紹介

佐世保市は今年市政施行120周年を迎えます。佐世保市と共に歩んできた佐世保港の歴史を紹介します。

歴史年表

- 1889(明治22)年 佐世保港開港(佐世保鎮守府が開庁)
- 1902(明治35)年 佐世保市誕生
- 1946(昭和21)年 佐世保船舶工業(佐世保重工業)設立
- 1951(昭和26)年 重要港湾に指定
- 1952(昭和27)年 米海軍基地に指定
- 1972(昭和47)年 前畑ふ頭完成
- 1981(昭和56)年 浦頭ふ頭完成
- 1989(平成元)年 佐世保港開港100周年
- 1992(平成4)年 ハウステンボス開業
- 2002(平成14)年 佐世保市政100周年
- 2015(平成27)年 三浦地区国際ターミナル完成
- 2017(平成29)年 国際旅客船拠点形成港湾に指定
- 2020(令和2)年 浦頭地区旅客船岸壁完成
- 2022(令和4)年 佐世保市政120周年 前畑地区岸壁(-10m)改良工事 完成

前畑地区



前畑地区では佐世保港における最初の公共外貿ふ頭として、岸壁(-10m、-11m)やこれに伴う泊地等を昭和40年から昭和47年にかけて整備されました。その後、船舶の大型化への対応、更なる物流の効率化を図るため、岸壁(-13m)等を整備し平成16年頃には今の形となりました。

岸壁背後にはJA北九州くみあい飼料(株)、西九州倉庫(株)が立地し、当該岸壁より荷役した飼料穀物を西九州地区(長崎県、佐賀県)をメインに供給を行っています。

平成28年から、老朽化が著しい岸壁(-10m)の改良工事を開始し、令和4年に完了予定です。

三浦地区



三浦地区からは上五島や周辺離島への玄関口としてフェリー・高速船が就航しています。昭和60年頃には佐世保駅の海側を埋め立てて市民や観光客の憩いと交流の場として、佐世保市全体の活性化につなげるためのポータルネットワーク21計画に着手しました。平成22年には三浦地区みなとまちづくり計画に名称を変更し、東アジアへ向けた九州サブ・ゲートウェイ構想と安心安全なみなとづくりの実現に向け、平成26年に耐震強化岸壁、平成27年に国際ターミナルビルの供用が開始されました。

浦頭地区



太平洋戦争の終結に伴い佐世保引揚援護局があった浦頭地区では、昭和20年から昭和25年までに1,396,468人が上陸したという歴史があります。昭和46年から昭和55年にかけては、長崎県北地域の経済活動の浮揚を図るため、岸壁(-7.5m)が整備されました。

近年ではクルーズ船の寄港数増加、大型化が進んでいる佐世保港のクルーズ船の寄港需要に対応するため、浦頭地区に16万トンの級クルーズ船を対象にした新たな旅客船岸壁が整備されました。

「かもめ」県内到着

令和4年9月23日に開業予定の、西九州新幹線(武雄温泉～長崎間)で使用される新車両「かもめ」の陸揚げ作業が、1月9日に川棚港で行われました。

川棚港では歓迎セレモニーも開催され、地元の子どもたちなどを含む関係者約150人が迎え入れました。

陸揚げされた車両は、「大村車両基地」に搬送され、整備や点検、試験走行など開業に向けた準備が進められます。



先頭車両の陸揚げ状況(重さ約30ト、全長約27.5m)

事務所HPリニューアル

今年度、若手職員を中心にHP改良プロジェクトチームを結成し、奮闘しています。HPは令和4年4月1日から新しくなります！

今のHPで改善した方がいいと感じた部分はありますか？
細かいことでもいいのでどんどん発言してください！

事務所が行っている業務がわからないと感じたので、携わっている工事の様子がわかるような情報を載せた方がいいと感じました！



佐世保港・巖原港分室の若手職員も、WEB参加！

会議の様子

探したいワードが調べられないので、検索窓をつけたら良いと感じました！

トップページの写真に変化がないからスライドショーにできないかな・・・



事務所HP_QR

未来を担う若手職員の型にとらわれない斬新なアイデアがたくさん詰まったHPになるのでぜひ1度アクセスしてみてください！（バックナンバーも掲載中！）



長崎開港 450周年
SINCE 1571



国土交通省 九州地方整備局
長崎港湾・空港整備事務所



〒850-0961 長崎市小ヶ倉町3丁目76-72
TEL:095-878-5175 FAX:095-878-6734
URL: <https://www.pa.qsr.mlit.go.jp/nagasaki/>

フリーダイヤル おーいに よくなれ みなと
0120-497-370

最寄りの港湾・空港整備事務所につながります

長崎港湾・空港整備事務所の業務内容

当事務所では、重要港湾における国が行う港湾施設の整備（岸壁、防波堤、航路、泊地など）と長崎空港の土木施設（滑走路、誘導路、エプロン等）の整備を行っています。具体的には、施設を整備するための工事の発注や監督業務、工事を発注するための予算の要求などを行っています。

また、海やみなどに関する相談、アドバイス、出前講座等を行っています。

- ※開発保全航路・・・国が開発及び保全を行う重要な航路のこと
- 長崎県内の開発保全航路・・・蝶蛾ノ瀬戸航路（じょうがのせとこうろ）
- 万瀬瀬戸航路（まんぜせとこうろ）
- 平戸瀬戸航路（ひらどせとこうろ）

出前講座とは・・・？

出前講座では、職員が皆さんの職場や学校等に
出向き港・空港について
分かりやすく説明します。

